

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじんおおさかしおんがくだん 公益社団法人大阪市音楽団	団体ウェブサイトURL	<a href="https://shion.jp">https://shion.jp</a>
代表者職・氏名	理事長・石井徹哉		
制作団体所在地	〒 559-0022 大阪市住之江区緑木1-4-138	最寄り駅(バス停)	Osaka Metro四つ橋線北加賀屋
電話番号	06-6684-2130		
ふりがな 公演団体名	おおさかしおんういんどおーけすとら Osaka Shion Wind Orchestra	団体ウェブサイトURL	<a href="https://shion.jp">https://shion.jp</a>
代表者職・氏名	理事長・石井徹哉		
公演団体所在地	〒 559-0022 大阪市住之江区緑木1-4-138	最寄り駅(バス停)	Osaka Metro四つ橋線北加賀屋
制作団体 設立年月	大正12年6月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長:石井徹哉/専務理事:長尾裕之/常務理事:福田圭佑/理事:池末浩規 他5名/監事:岡本健一	理事:9名、監事1名、正会員:5名、顧問:1名、楽団員:35名、事務職員:9名 加入条件:オーディション等による	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者置く	本事業担当者名	石井徹哉
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	國府利支恵
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:ishii_t@shion.jp">ishii_t@shion.jp</a>		

<p><b>制作団体沿革・ 主な受賞歴</b></p>	<p>大正 12(1923)年 元陸軍第四師団軍楽隊有志により「大阪市音楽隊」を結成。昭和 9(1934)年 大阪市直営の楽団となる。 昭和 21(1946)年 大阪市音楽団と改称。 昭和 54(1979)年 大阪芸術賞(府・市)を受賞。 昭和 56(1981)年 市音楽団事務所・練習場を天王寺公園内から大阪城公園内へ移転。 昭和 63(1988)年 日本民間放送連盟賞・ラジオ番組娯楽部門最優秀賞を受賞。 平成 26(2014)年 大阪市直営から「一般社団法人 大阪市音楽団」として民営化。 平成 27(2015)年 楽団名称を「大阪市音楽団」より「Osaka Shion Wind Orchestra(通称 Shion)」と改称。 平成30(2018)年 創立95周年。公益社団法人に移行。 令和5(2023)年 創立100周年。ミッドウエストクリニック(アメリカ・シカゴ)にて招待演奏を行う。初の海外公演</p>		
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>昭和 38(1963)年より吹奏楽普及のため、学校の体育館や施設などにて児童・生徒のための公演を実施してきました。開始当初は年間 20 公演程度の公演数が、昭和 50 年代には年間 80 公演を超える回数となりました。また、児童・生徒への情操教育の一貫として、音楽専用ホールにて鑑賞ができるように、現在大阪市内において、合同音楽鑑賞会として実施しています。近くにホールがない学校に対しては、従来とおり体育館などでの演奏活動も続けています。 <b>近年の学校公演の実績</b> 令和2(2020)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム2公演、「合同音楽鑑賞会」プログラム 16公演 令和3(2021)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム4公演、「合同音楽鑑賞会」プログラム 12公演 令和4(2022)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム4公演、「合同音楽鑑賞会」プログラム 22公演 令和5(2023)年度「学校訪問型鑑賞会」プログラム3公演、「合同音楽鑑賞会」プログラム 19公演</p>		
<p><b>特別支援学校等における公演実績</b></p>	<p>平成27(2015)年度 大阪市視覚支援特別学校(合同音楽鑑賞会) 平成28(2016)年度 大阪市視覚支援特別学校(合同音楽鑑賞会) 長野県長野市小中学校巡回公演(長野ろう学校、若槻養護学校、長野盲学校) 平成 29(2017)年度 長野県松本市小学校巡回公演(松本ろう学校、松本養護学校、寿台養護 学校、松本盲学校) 平成30(2018)年度 大阪市視覚支援特別学校(合同音楽鑑賞会) 令和元(2019)年 大阪府立生野支援学校、大阪府立北視覚支援学校(合同音楽鑑賞会) 令和 2(2020)年 大阪府立住之江支援学校(合同音楽鑑賞会) 令和3(2021)年 大阪府立生野支援学校、大阪府立大阪北視覚支援学校、大阪府立住之江支援 学校、大阪府立生野聴覚支援学校(合同音楽鑑賞会) 令和4(2022)年 大阪府立大阪北視覚支援学校、大阪府立大阪南視覚支援学校小学部、大阪府 立生野支援学校、大阪府立住之江支援学校、大阪府立難波支援学校(合同音楽鑑賞会) 令和5年度 大阪府立大阪北視覚支援学校、大阪府立住之江支援学校、大阪南視覚支援学校、大阪府立難波支援学校(合同音楽鑑賞会)</p>		
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>低学年：https://youtu.be/k_CeJfDhLf0 高学年・中学：https://x.gd/HBjYi</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p></p>
<p>PW:</p>		<p></p>	

別添	あり
----	----

公演・ワークショップの内容 【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	Osaka Shion Wind Orchestra巡回コンサート〈オーケストラと一緒に音楽旅行！〉			
企画のねらい	文部科学省の学習指導要領に音楽科の目標としてある、 【表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。】に沿い、生演奏でしか体感することのできない音楽鑑賞体験を行います。また、「吹奏楽」という、学生にとって親しみやすいジャンルの特性を活かし、様々な時代・国の音楽を通して音楽を聴くことの楽しみ方、他人の演奏を聴くという姿勢を培うきっかけとなることを目的とします。			
演目概要・演目選択理由	※別添あり(別添1)			
児童・生徒の参加又は体験の形態	1.指揮者体験:指揮者による指揮法の解説により生徒全員のその場での体験後、代表生徒に実際にオーケストラの指揮を体験してもらい、音楽の構造と関わりを学びます。 2.校歌斉唱(小学校選択式):当団の伴奏で合唱し、参加者全員で一つの音楽を作る体験をします。 3.吹奏楽部との共演(中学校選択式):当団演奏の中に入り一緒にを行い、曲想と音楽の構造と関わりについて学びます。 4.手拍子による演奏参加:アンコールでは、校歌や合同演奏といった参加がない場合でも、指揮者の誘導により手拍子で演奏参加の体験ができます。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	合奏50名(舞台)、合唱500名(客席)	
		鑑賞人数目安	2000名まで(校外施設等利用含む)	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	1.メリーゴーランド:P.スパーク 2.ミッキーマウス・マーチ:J.ドッド 3.歌劇「ウィリアム・テル」序曲より「スイス軍の行進」:G.ロッシーニ 4.巫麻色の髪乙女:C.ドビュッシー 5.バレエ音楽「眠れる森の美女」より「ワルツ」:P.I.チャイコフスキー 6.ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」メドレー:R.ロジャース 7-1.(小学校低学年)吹奏楽のための土俗的舞曲[2012年版]/和田薫 7-2.(小学校高学年・中学生)吹奏楽のための抒情的「祭」/伊藤康英 8-1.(選択制) ラデツキー行進曲:J.シュトラウス I 世 8-2.(選択制) 歌劇「カルメン」より「闘牛士の歌(第一幕への前奏曲)」:G.ビゼー 9.メルヘン:酒井格 10.(小学校低学年)セント・アンソニー・ヴァリエーション:W.H.ヒル 10.(小学校高学年・中学生)アルメニアン・ダンス パートI/A.リード 11-1.(小学校低学年).セプテンバー:アース,ウインド&ファイア 11-2.(小学校高学年・中学生)サー・デューク:S.ワンダー 12-1.(選択制)ボギー大佐:K.J.アルフォード 12-2.(選択制)校歌(書き下ろし吹奏楽編曲)			
出演者	指揮者:堀俊輔(予定)、佐々木新平(予定)、井村誠貴(予定) 司会者:覚道沙恵子(予定) 吹奏楽:Osaka Shion Wind Orchestra(50名編成) ※別添あり(別添2)			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	吹奏楽:Osaka Shion Wind Orchestra/1923年に誕生した日本で最も長い歴史と伝統を誇る交響吹奏楽団。クラシックからポピュラーまで多彩なコンサートを展開し、各都市での演奏会をはじめ幼稚園から高等学校までの音楽鑑賞会、吹奏楽講習会、CD録音など、幅広い活動を通じて音楽文化の向上と発展のために力を注いでいる。 司会:覚道沙恵子(予定)/2015～2020年和歌山放送アナウンサーを経る。2016年 アノンシスト賞 近畿中部北陸ブロック「読み・ナレーション部門」新人奨励賞受賞。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 50 名	運搬	積載量: 3.5/2 t	
	スタッフ: 10 名		車長: 7.3/6.5 m	
	合計: 60 名		台数: 2 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～10時	13時30分～15時	15分	15時～16時30分	17時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						
本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認 します。(大幅な変更は認め られません)	6月	7月	8月	9月		
	10日	8日	0日	5日		
	10月	11月	12月	1月		
	14日	0日	8日	14日		
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	59日		

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出が  
わかる写真)



体育館での公演の様子

※採択決定後、図  
面等の提出をお願い  
します。



指揮者体験コーナーの様子



アンコール終了後、生徒代表からのご挨拶の様子

著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要 否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況	採択後手続き予定

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり
----	----

【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra 】

ワークショップのねらい	※別添あり(別添3)		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	20～500名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>主指導者1名、楽団員3名(木管楽器1名、金管楽器1名、打楽器1名)を予定。時間を大きく2コマに分け実施します。</p> <p><b>①講師3名の紹介</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木管、金管、打楽器の講師3名と司会者1名により進めていきます。楽器を持って入場し、それぞれの楽器を間近で鑑賞してもらいます。</li> </ul> <p><b>②吹奏楽の歴史についてのレクチャー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹奏楽が日本に伝えられたのは150年前。日本では何時代？(答え:明治時代)など、身近なキーワードを伝えて記憶に残る工夫をいたします。</li> <li>・現在の日本での吹奏楽人口が100万人以上であり、世界で最も吹奏楽経験者の多い国であることを紹介、楽器や演奏者に対する興味を持ってもらい、この後のワークショップへの導入といたします。</li> </ul> <p><b>③管楽器のお話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管楽器・打楽器・弦楽器の特徴や成り立ちの違いを、スライドで図を見せながら解説を行います。</li> <li>・木管楽器・金管楽器・打楽器の音の出る仕組みを、楽器演奏だけで無く唇やリードを使った実演を交えて行います。打楽器では、スネアドラム(小太鼓)を用いて、ロールやリムショットといった演奏方法を間近で見ってもらうことにより、より詳細に楽器の特徴を覚えていただけます。</li> </ul> <p><b>④音階のお話</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の音階と世界の国々との音階の違いを、楽器演奏で聴いてもらい、「民謡音階」「アジアの音階」「琉球音階」「アラビア音階」などの解説を行います。</li> </ul> <p>(休憩)</p> <p><b>⑤ワークショップ講師それぞれの楽器(3種類)についての詳細な説明と演奏</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奏者自身の演奏と声(楽器を始めたきっかけや、プロフェッショナルとして日々意識していることなど)を本人達から聞くことにより、楽器を通して成長できたエピソードなどを交えてお話しします。</li> </ul> <p><b>⑥リズム体験コーナー</b></p> <p>打楽器奏者の先導により、手をたたいてリズムの追いかけてもらう。5～6種類のリズムパターンを使い、生徒には手や足で音を鳴らし、全身を使って音楽を表現することを体感してもらう</p> <p><b>⑦指揮者体験コーナー(事前学習)</b></p> <p>本公演で指揮者体験で演奏をする「カルメン」を演奏。その後、指揮のやり方や全員で息を合わせるためのコツをレクチャーする。数名の生徒にでてきてもらい、指揮者体験を行う。</p> <p><b>⑧質疑応答</b></p> <p>学生たちが興味をもったポイントを、本公演に活かします。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>ワークショップから本公演までの期間中、課題を一つ決め、取り組んでいただきます(例として本公演の演奏曲を毎日昼休みに流すなど、当楽団の演奏CDを授業で聴いておく。指揮者コーナーの練習、全員合唱の練習など)。</p> <p>これにより児童、生徒のモチベーションが上がり本公演までの期間が生きたものになり、公演への期待も高まります。</p> <p>中学校で吹奏楽部との合同演奏の希望がある場合は、共演曲などを題材に基礎練習など、合奏でのポイントや音楽の楽しみを体感していただけます。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra 】
<p style="text-align: center;"><b>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</b></p>	<p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b>          弊楽団は、2014年に民営化以後、大阪市から全国へ活動の拠点を広げてまいりました。鑑賞会事業につきましても積極的に取り組んでおり、音楽専用ホールにて鑑賞ができるように、現在大阪市内において「合同音楽鑑賞会」として複数校同時に鑑賞していただく【合同音楽鑑賞会】のスタイルで実施しています。</p> <p>また、近くにホールがない学校に対しては、従来通り体育館などでの演奏活動も続けており、この「<b>学校巡回公演事業</b>」におきましても、令和3年度に初めてにご採択いただいて以来毎年続けさせていただいております。</p> <p>実施校様より、「インターネットやCDと言ったデジタルな音楽を通常は聴いている中で、吹奏楽の生のサウンドが、これほど素晴らしく、自然と涙がこみ上げて来るものだとは、正直思っていませんでした。」と評価していただきました。我々といたしましても、全国各地へこの感動をお届けし、この体験が小学生・中学生の時期にしか味わえない「一生の宝物」となることを願っております。</p> <p>「吹奏楽の持つ多様性を活かした演目」で音楽に対する垣根を取り払うとともに、中学校公演では同じ吹奏楽を志す生徒との合同演奏による交流を持ち、直接演奏技術を伝える事取り組みなど、弊楽団ならではのスキルが御事業の目的の一助となれば幸甚です。</p> <p><b>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b>          第一に、前段階で実施校と綿密に打ち合わせ、ワークショップの際の下見においても、入校可能時間帯(登下校時間帯を避ける)搬入動線、舞台位置、鑑賞位置、設備確認などを十分にさせていただき、前日、あるいは当日のセッティングおよび撤収が安全かつ円滑に遂行できる体制作りを実施いたします。</p> <p>第二に、校内で先生や児童・生徒へ接する際は、どんな状況であっても安全配慮に従事し、笑顔で気持ちよく挨拶ができるよう、人とのコミュニケーションを何より大切にし、信頼関係の中でスムーズなワークショップ、本公演を実施して参りたい所存です。</p> <p>また、公演実績を実施校の許可のもと、公式SNSにも掲載し、「学校巡回公演事業」のPRとともに、広く周知することで、より身近な事業である事をお伝えしていきます。</p> <p>・最後に、以下の指針を遂行して参ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●鑑賞会実施テンプレートに沿って、不備がないか双方よりチェックして実施します。</li> <li>●テンプレート以外にも、下見や打合せを綿密し、学校の実情把握にも努めます。</li> <li>●担当教員が全教員への説明をしやすい資料作りの協力をいたします。</li> <li>●担当教員がわかりやすいように、公演準備お願い書(テンプレート)を作成し、それを基に備方法についてもわかりやすくお伝えいたします。</li> <li>●地域毎の特性や事情に配慮し、各学校の要望を最大限お聞きします。</li> <li>●鑑賞する児童・生徒が音楽に相当の興味をもっている訳ではないので、興味の幅を広げる工夫として、誰もがその場で取り組めて参加できるプラン作りをいたします。</li> <li>●学校での鑑賞会の記憶は、体験と動画となるため、右脳に作用し長く留まるといわれております。立奏等、分かりやすいパフォーマンスの提供や、共演者の配置などにも気を配り、映像としても、印象に残りやすい公演作りをいたします。</li> <li>●一期一会ではあるかも知れませんが、訪問先の学校校内で出会った児童・生徒とは、しっかり挨拶を交わし、演奏からだけではなく、人として基本的なことを示します。</li> <li>●開催地では、節度を持った行動をし、本公演が素晴らしいものになるよう努めます。</li> <li>●上記内容は公演に参加する楽団員、事務局員が共有し、気持ちの良い公演となるよう努めます。</li> </ul>

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	Osaka Shion Wind Orchestra 】
<p>項目内容演目概要・演目選択理由</p>	<p><b>【第1部】</b></p> <p><b>1.メリーゴーランド:P.スパーク</b> 明るく親しみやすい吹奏楽オリジナルのオープニングピース。それぞれの楽器に立奏の指示があり、顔見せも兼ねる。</p> <p><b>2.ミッキーマウス・マーチ:J.ドッド/星出尚志編曲</b> 誰もが知るディズニーの名曲に乗せて、吹奏楽の楽器を紹介。前半に楽器紹介を行い各楽器の特徴や、音色の違いを覚えてもらうことにより、以降の鑑賞により興味を持ってもらう。</p> <p><b>3.歌劇「ウィリアム・テル」序曲より“スイス軍の行進”:G.ロッシーニ/淀彰編曲</b> テレビや運動会BGMなどで馴染みの深い作品で、クラシック音楽への導入を図る。オペラという音楽ジャンルについても解説する。</p> <p><b>4.亜麻色の髪の乙女:C.ドビュッシー/M.ブランド編曲</b> 近代音楽を代表する作曲家ドビュッシーのピアノ曲。あらゆるジャンル・編成の楽曲を演奏するという吹奏楽の特色も伝える。</p> <p><b>5.バレエ音楽「眠れる森の美女」より“ワルツ”:P.I.チャイコフスキー/M.L.レイク編曲</b> チャイコフスキー三大バレエから、同名のディズニー映画にも引用された一曲。舞踏と音楽の関係を解説する。</p> <p><b>6.ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」メドレー:R.ロジャース/岩井直博編曲</b> ドレミのうた、エーデルワイスなど教科書掲載曲も多いミュージカル作品。ゴージャスなメドレーでその世界観を堪能できる。</p> <p><b>【第2部】</b></p> <p><b>7.(小学校低学年)吹奏楽のための土俗的舞曲[2012年版]/和田薫</b> 日本の音素材を用いた、「犬夜叉」の音楽も手がけた和田薫による急-緩-急の聴きやすい楽曲。</p> <p><b>7.(小学校高学年・中学生)吹奏楽のための抒情的「祭」/伊藤康英</b> 青森県民謡を用いた作品。作曲者の精緻な技量により、三味線・唄・ねぶた祭りが抒情的に描かれている。</p> <p><b>8-1.(選択制)ラデツキー行進曲:J.シュトラウス I 世/J.ヴァンデブラーク編曲</b> クラシック音楽の中で小中学生の認知度が群を抜いている作品。この楽曲を用いて、人生の中でもなかなか出来ない指揮者体験を。</p> <p><b>8-2.(選択制)歌劇「カルメン」より“闘牛士の歌(第一幕への前奏曲)":G.ビゼー/高昌帥編曲</b> 世界でもっとも人気のあるオペラの1つ。テンポの速い曲なので、「ラデツキー行進曲」に比べやや上級者向けで、振れ幅も大きい。</p> <p><b>9.メルヘン:酒井格</b> 大阪の作曲家、酒井格による全日本吹奏楽コンクール2024年度課題曲。楽しい曲調とは裏腹に、指揮者にかかなりの技量が求められる。</p> <p><b>10.(小学校低学年)セント・アンソニー・ヴァリエーション:W.H.ヒル</b> 「セント・アンソニーのコラール」(ハイドン、ブラームスもテーマに用いた)による変奏曲。吹奏楽ならではのダイナミックな曲想。</p> <p><b>10.(小学校高学年・中学生)アルメニアン・ダンス パート I/A.リード</b> 吹奏楽を語る上で外せないリードの作品の中でも最も有名。アルメニアの民謡の数々が5つの異なる性格のメドレー形式で綴られる。</p> <p><b>11.(小学校低学年)セプテンバー:アース,ウィンド&amp;ファイア/真島俊夫編曲</b> 吹奏楽の大きな特色である、ポピュラー音楽の親和性の高さを実演。ワークショップでも扱う「グルーヴ」を体感してもらう。</p> <p><b>11.(小学校高学年・中学生)サー・デューク:S.ワンダー/天野正道編曲</b> 吹奏楽の大きな特色である、ポピュラー音楽の親和性の高さを実演。ワークショップでも扱う「グルーヴ」を体感してもらう。</p> <p><b>12-1(選択制)ボギー大佐:K.J.アルフォード</b> 吹奏楽史の中で重要な位置づけを占める行進曲。その中でもとりわけ一般知名度の高い楽曲をコンサート締めくくりにお届け。</p> <p><b>12-2(選択制)校歌(書き下ろし吹奏楽編曲)</b> 日頃ピアノ伴奏やテープで聴いている校歌を吹奏楽のサウンドで聴くという、なかなかできない体験をお届け。</p>		

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 Osaka Shion Wind Orchestra 】
出演者	<p><b>Osaka Shion Wind Orchestra楽団員メンバーリスト (34名)</b></p> <p><b>コンサートマスター</b> 古賀喜比古</p> <p><b>フルート&amp;ピッコロ</b> 磯田純子 出口かよ子</p> <p><b>オーボエ&amp;イングリッシュホルン</b> 高橋幸子 福田淳</p> <p><b>クラリネット</b> 青山知世 大場昂平 蔭山晶子 篠原猛浩 松倉完太郎 仙基玲</p> <p><b>ファゴット</b> 國府利支恵 常田麻衣</p> <p><b>サクソフォン</b> 田端直美 福田亨 高畑次郎 井澤裕介</p> <p><b>トランペット</b> 小和将太 中嶋尚也 新穂優子 丸山菜津紀 村山広明</p> <p><b>ホルン</b> 中橋慶子 山口明 山口潤</p> <p><b>トロンボーン</b> 戸井田晃和 石井徹哉</p> <p><b>ユーフォニアム</b> 岩井田さくら 三宅孝典</p> <p><b>チューバ</b> 北島真司 松本大介</p> <p><b>コントラバス</b> 横山葉瑠奈</p> <p><b>打楽器</b></p> <p>高鍋歩 多畑秀城 落合空千</p> <p><b>指揮:堀俊輔(予定)</b> / 東京芸術大学で作曲と指揮を学ぶ。1989年東京交響楽団副指揮者就任、90年に東響特別演奏会で正式デビューを果たす。94年にオラトリオ東京を創立するなど精力的な活動を行なっている。エッセイストとして著書もある。</p> <p><b>指揮:佐々木新平(予定)</b> / 東京学芸大学を経て桐朋学園大学にて指揮を専攻。ヨーロッパ各地の国際指揮マスタークラスに選抜され、J.パヌラら巨匠たちの薫陶を受ける。2013年よりミュンヘンへ留学しヨーロッパ各地でさらなる研鑽を積んだ。これまで国内主要楽団に客演。15～19年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団アソシエイト・コンダクター。21～24年ヤマハ吹奏楽団常任指揮者。</p> <p><b>指揮:井村誠貴(予定)</b> / 1994年大阪音楽大学コントラバス科卒業。2001年イタリアに留学。京都フィルハーモニー室内合奏団を中心にコンサートを定期的に行う一方、大阪交響楽団、オペラハウス管弦楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団等を客演。その活動の幅は指揮活動だけにとどまらず、オペラ演出、企画構成、さらには作曲、編曲、作調も手掛け、マルチな才能を発揮。</p>	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先

No.2

【公演団体名

Osaka Shion Wind Orchestra

】

ワークショップの  
ねらい

管楽器は「吹く」ことにより音が出る楽器ですので、その「吹く」ことによって「なぜ音が出るのか」実際に楽器を使いながら分かりやすく構造を説明し、生身の人間が創る音楽芸術の素晴らしさを感じ取っていただきます。

また、予習を通じて、音楽を聴くだけでなく、自分自身が実際に体感することによって得られる要素を合わせて学び、本公演への準備をいたします。

吹奏楽部との合同演奏を希望される場合は、自分自身が演奏することにより奏でる音を通じて、音との結びつきも合わせて学び、実演芸術の素晴らしさを体感できます。

本公演では、鑑賞教室のスタイルは取っているものの、あくまでも演奏会として楽しんでいただきたいと考えており、当日は難しい説明ではなく、聴く側と同じ目線に立った進行を心がけます。

■日本公演までの準備期間を活用するため、下記の通り、ワークショップ後に簡易な課題例をお示しいたします。各学校で何か1つでも積極的に取り組んでいただくことで、児童・生徒の皆さんが純粋に生の音楽に触れ、作り込まれた音の1つ1つを身体全体で受け止めていただき、鑑賞体験がよりスムーズで豊かなものになるように願っております。

- 1)演奏曲の中の数曲を校内放送などで継続的に流していただき、当日への期待感を高める。または、授業でCD鑑賞の時間を持っていただく。
- 2)校歌を選択された学校では、参加される児童・生徒の皆さんで、放課後やオリエンテーションの時間を利用してクラス単位で練習してもらおう。
- 3)合同演奏を希望されるクラブ活動におきましては、できれば当日の演奏やパフォーマンスに集中できるよう暗譜できるレベルまで練習してもらおう。

上記の取り組みにより、児童・生徒の皆さんのモチベーションが上がり、本公演までの経験も生きたものとなり、公演への期待も高まり、公演の成功へと導きます。

[2021年度ワークショップ資料より(抜粋)]

